

町の考えを問う

一般質問の要旨

ここが聞きたい!

9月定例会の一般質問は、9月9日、10日の両日行い、町と町教育委員会の考えを^{ただ}質しました。議長を除く10人の議員全員が登壇しました。質問時間は、各議員に質問と行政側答弁を合わせて1時間割り当て、町側に通告した全項目を行います。質問順に掲載し各議員のページには主な質問項目と、その答弁要旨をそれぞれ載せてあります。

9月9日

1. 織田 昭雄 議員

- ①人口維持の為の施策について
- ②町の観光行政についての将来へ向けた具体的な方策について
- ③駅前商店街等の街路灯について

2. 三井 新成 議員

- ①第2次富士見町都市計画マスタープランについて
- ②富士見町立地適正化計画について
- ③八ヶ岳エコーラインの延伸について

3. 川合 弘人 議員

- ①公共施設再編計画の進め方
- ②諏訪南リサイクルセンター稼働後の南諏衛生センターと、住民サービスの在り方

4. 牛山 基樹 議員

- ①キャッシュレス決済の重要性と商業活性化のまちづくりについて
- ②SDGsを活かすまちづくりについて
- ③まち・ひと・しごと創生基本方針2019について

5. 小倉 裕子 議員

- ①公共施設の情報インフラ見直しについて
- ②情報基盤整備について
- ③テレワーク移住者による地域産業強化と地域活性化事業の今後について

9月10日

6. 島 正孝 議員

- ①8月は鎮魂と慰霊の月、平和への取り組みは
- ②職員の人事評価について
- ③職員が課題解決のために、どのように職場づくりをしているか
- ④目指すべき図書館運営について

7. 名取 久仁春 議員

- ①ライフライン等保全対策事業について

8. 名取 武一 議員

- ①幼児教育“無償化”について
- ②公営・町営住宅に関する「公共施設再編方針」について
- ③「富士見パノラマリゾート」について

9. 五味 仙一 議員

- ①80・50問題について
- ②職人・技術者不足について

10. 五味 平一 議員

- ①富士見町に於ける「ひきこもり」の現状・実態について
- ②「ひきこもり」問題をめぐる背景について
- ③「ひきこもり」支援は既存の社会への適応に何らかの困難を抱える個人の生き方を考えて行われているか

※質問順は、議会運営委員会の中で、委員によるくじ引きで決めています。※一般質問の要旨は、各議員がそれぞれ自分のページを編集しています。

全員協議会での町関係協議事項・報告事項【7月～9月】

第5回 7月17日

- (1) 一般社団法人富士見町開発公社経営状況について (総務課)
- (2) 個別施設計画について (副町長・総務課・上下水道課)

第6回 8月20日

- (1) 9月定例議会提出議題の概要について (副町長)
- (2) 地方財政状況調査の概要について (財務課)
- (3) 楽酪ミルク工房について(産業課)
- (4) B&G海洋センター立沢艇庫について (生涯学習課)
- (5) 2027国体自転車ロードレースについて (生涯学習課)
- (6) インフルエンザ予防接種者負担金について (住民福祉課)
- (7) 地方創生交付金事業等について (総務課)
 - 平成30年度事業実施結果について ●第2期富士見町総合戦略策定業務について
- (8) 太陽光発電設備の設置及び維持管理に関する条例施行規則について (総務課)
- (9) 一般社団法人富士見町開発公社経営状況について (総務課)

第7回 9月19日

- (1) 9月定例議会追加提案 (人事案件) などについて (副町長)
- (2) 一般社団法人富士見町開発公社経営状況について (総務課)

※ () 内は説明者

駅前街路灯の 建て替えは

答 地域の足並が揃う事が重要



織田 昭雄

■人口維持の為の施策について

質問 移住、定住の促進補助金の現状は。

町長 人口問題は全国の自治体において最重要課題で重点施策として取り

組んでいる。人口減少は推計を上回る勢いで進んでいる。移住定住を誘導する直接的な補助金は、新築で100万円、空き家改修に上限100万円を新設した。第5次総合計画後期基本計画では2045年の人口1万人を維持する目標値を決めた。移住定住実績を検証し一般町民向けの様々な補助金とのバランスを保ち進める。

建設課長 今回リフォームに同居条件を加え、自分の子供が帰って来る為リフォームして同居、子供が親を引き取るためリフォームして同居等、同居を二つの条件として追加し、10万円の補助金に30万円を追加した。そのような試みをし

ながら広く移住の対応をしていく。自分の子供だけでなく孫が実家を見るケースも視野に入れる。

質問 農業者以外でUターンし富士見に戻り家業を継ぐ人への支援は。

町長 農業以外の事業の後継者については毎年町内の色々な職業の人達と話す機会に要望が上がっている。技術や業の伝承について、これは何とか手助けしたい。

産業課長 産業振興センターでも次世代を築く経営者になる為の若手経営者と後継予定者を対象にした育成講座を開催する。さらに町長から指示のあった自営業者の後継者のUターン支援についても検討を始めてお

り、成果を上げたいと思っている。

■駅前街路灯について。

質問 駅前商業会でスズラン灯の老朽化からも撤去を検討しているが町は現状を把握しているか。

町長 町は検討会の進捗状況について商工会から情報提供頂いている。状況によっては助言を考えているが地域の所有者と地域の人達の足並が揃っていくことが重要だ。

質問 補助金を町にお願いする要望がある。新年度の予算に組み込めるか

町長 事業者が検討している様だがどうなるか解らない。今簡単に補助金を出すとは言えない。

都市計画マスタープランの課題は

答 再度計画の全体を町民へ説明



三井 新成

質問 第2次富士見町都市計画マスタープランについて現行計画の問題点と課題は。計画期間20年間の歩みの中で近隣住民に理解されているか。

また、マスタープランをベースとした立地適正化計画も含めて。

町長 計画は20年先を見越しての将来図を描いてきたが、都市計画を立てる上での基本的基準とする色々な数字に齟齬すなわち食い違いが生じている。その数値を修正し、見直すことにより今後の都市計画の方向性を決めていく。このマスタープランは、人口減少対策の次の段階であり今後の方向性を示すものである。町民の皆さんにはまだ十分な理解が得られていないと考えているので、富士見・境各地区で計画の全体を示せるように作業を進め説明会を計画している。

質問 現状の課題として、コンパクト

トで一体性のあるまちづくりとあるが、その意味は。また、コンパクト化を目指した政策により、周辺地域の過疎化が進行するが、その対策は。

町長 人口減少により過疎化が現実味を増してきている中で、町民の快適な生活環境を作るために、また、基礎的コミュニティを作ること目標に緩やかに抑制をしていきながら、ある程度のコンパクト化したいいくつかの地区を作る必要性があると考えている。

質問 土地利用構想図の産業工業ゾーンとはどの程度の規模を想定しているか。また、都市計画道路の進捗状況と今後の進め方は。

■その他の質問

*八ヶ岳エコーラインの必要性は

一般質問

小学校、保育園の再編方針は

答 1校、3園の仮の案を示す



川合 弘人

■公共施設の再編方針

質問 優先度が高い学校教育施設・保育園再編の方向性は。どのような手順で検討を進めていく考えか。

教育長 児童数の減少、施設の老朽化を見据えながら方向性を考える。学校規模と学校数がいかなるものか良いかを考える。現在の富士見小施設の規模で町内全児童がまかなえる状況が予想されるため、(仮)の案では、小学校を1校に統合する原案を町民に投げ掛ける。保育園は5園体制の維持は厳しい。1園のみでいいとする案も出たが、3園体制があってもいいとする仮の案を議論の材料としてお示しすることになった。検討手順は、仮の案を町民に示し、いずれは、公の検討機関を設置する。

教育長 年間利用者はこの10年で約7000人減少した。町民センター体育館も約1万1200人の減。海洋センターを廃止しても日常的なスポーツ活動に支障はきたさないと判断した。跡地は体育施設全体の構成の中で検討する。

■粗大ごみ施設廃止後の対応は
質問 粗大ごみなどは町内で引き続き受け入れ、諏訪南リサイクルセンター(茅野市)に搬送するような、町独自の業者委託を検討できないか。有資格者の技術を生かす方法は。
町長 拠点収集は今まで同様に委託業者が搬送するが、個人の粗大ごみは個人で運び込むことになる。
建設課長 一時引き取り場所を町内に設けると、保管スペースが必要になる。今後の課題として考えたい。リサイクルセンターの運営方法を考える中で、南衛の人たちが加わることでできるのか、担当者会議で検討したい。話題には上がっている。



入り口には高い階段があり、来館者から改善要望のある井戸尻考古館

「商業活性化計画」策定はあるか?

答 条件が揃えば、実態調査から始める。



牛山 基樹

質問 マネーインフラ整備と商業活性化の町づくり計画は?

町長 すべての人口対策、住みやすい町にする環境整備なので、商業の

現状を知る実態調査開始はやぶさかではない。すべてのスタートだと考えるが、事業者、商工会の強い意欲と合意形成が前提条件である。

■商業活性化は行政が強いリーダーシップを示すべきではないか?
町長 調査の先に何をやるのか、組織づくりも含めて協働が必要だが、調査の先の計画には、民間のまとめ役がカギとなる。

質問 「持続可能な社会」SDGsを活かす町づくりの取り組みは?
町長 第五次総合計画とリンクした考えなので、各施策をきちんとすることがSDGsの取り組みである。教育長 町では大切に進めてきてい

る。主体的、対話的、深い学びはSDGsの基本であり、自分とのつながりを深く学ぶ教育に期待し、実現していく。
質問 メガソーラー発電を積極的に活用した、再生エネルギーの地産地消・自給自足など地域循環共生圏、「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル」事業を町の新規活力と位置づけ目指す考えはないか?
町長 SDGsのローカル化を第二次総合戦略に盛り込む方向でいる。将来に向かって考える価値を大いに感じている。

■2019年までの総括は?
町長 第1期は人口維持と移住人口を増やすことを目標に掲げたが、目標値とは乖離があった。第2期では人口減少を緩和させることに方針転換し、若手職員を含めた多くの職員から提言を受け、地方への人と資金の流れを多くする施策に反映させる。KPIについても、町民に対しての効果が分かりやすいこと、納得してもらいやすいことを指標とする。



情報基盤整備について

答 検討組織立ち上げの時期を検討している



小倉 裕子

質問 6月の一般質問で、情報基盤整備事業について質問し、検討組織立ち上げの回答があり、その後数回総務課と話し合いを行ったが、まだ検討組織が立ち上がっていない。現在緊急告知放送が届

いていない住宅があるという事実、いつ甚大な災害が起きるかわからない自然環境の中で、一刻も早い手立てが必要と思われるが。

町長 前回の定例会で、地域情報化委員会を立ち上げるとお答えし検討しているが、立ち上げのタイミングについてまだ結論が出ていない。更に情報収集を進め検討していくため、もう少ししばらく時間を頂きたい。

質問 災害時緊急通報の手段についてのようになっているか。

町長 次世代の情報通信、最新の情報技術を活用し町が抱える問題を解決できる方法があるか検討する必要がある。そのための情報収集を進めている。最新技術が有効と判断されれば

はその方向で利用を検討していきたい。**質問** 町民相互のつながり、見守りについて現状の課題は。

町長 集落組合、各種団体等による自助共助の観点も大事であり、町が一方的に提供するものではないと思っている。ただ、高齢者や障害をお持ちの方については、台帳を整備し民生委員の見回り、緊急通報装置の設置補助を行う等の対応、また地域包括ケアシステムを進める観点から、互助にも重点を置き、ボランティア活動に対する支えあいポイント付与の実施、見守りマップの作成、社協による24時間サポート体制等行っているが、課題とすれば個人情報情報の提供に対する本人の同意である。

質問 将来的に、高齢者が買い物や診察などを自宅でできるネットワークの構築をしていく考えはあるか。

町長 運転免許証の自主返納が高齢者の生活に影響していることは承知している。そのためJA等による買い物支援等を行っている。医療機関の診察については、交通インフラが不足している場合は、遠隔診療の検討を行っていく。国の補助金活用も可能なため、病院に中心になってもいい、検討を進めていきたい。

その他の質問
*公共施設の情報インフラ見直しについて
*テレワークによる移住政策の見直しについて

る。反省するところがあるのであれば反省し、町民の福祉向上の為に、これからも一層努力する。

■目指すべき図書館運営について

質問 富士見町が誇る図書館運営について、短期的、長期的展望と課題は。そして、その専門性は、どのように担保しているのか。

教育長 町が誇る図書館は、六十歳以上の利用が増えている。これからの課題は、幅広い世代の利用者に満足してもらえようというサービスの提供であると考えている。

答 平和教育の取り組みは毎年広島へ中学生を派遣している



島 正孝

質問 詩人尾崎喜八が戦後七年間、この富士見高原に住み、この高原の自然と人情とをその著作で頼もしく表現してくれている。日々変貌する

富士見町が、本当に町民が望む方向に進んでいるのか。些かの不安を持っている。

まず第一番目の質問。八月二十四日、富士見町戦没者追悼慰霊祭が執り行われ、改めて平和の町富士見に向けて、その実現を深く誓われた。その具体的な取り組みは。

町長 町は、昭和五十九年に非核平和の町を宣言している。教育現場では、毎年中学生五名を広島に派遣し、学校の授業にも生かしている。

■職員の人事評価について

質問 六月議会の同僚議員の一般質問で、幹部職員の人事ポイントにつ

■職員の職場づくり等について

質問 職員の働きやすい、また一人一人の能力を充分発揮できるように職場づくりは。そして、町民の多様な相談に対して、もう一歩前に出て、熱情を持って対応する努力は。

町長 私は、窓口対応に不備は無いと思っている。町職員は、予算、法律等沢山の制度の中で仕事をしてい

ライフライン確保の 為の伐採計画は

答 乙事で115本、
立沢29本



名取 久仁春

質問 今年度のライフライン確保の
為に、今年手を付ける地域は何処か。
また、その総延長はどのくらいか。
町長 場所は乙事の上の取り付け道
路沿線と立沢の取り付け道路の2か

所で、総延長で約2kmである。

質問 伐採対象範囲と伐採本数は。

町長 伐採範囲は中部電力と情報共有をして、主要電線にかかる倒木の恐れのある木を選んだ。
電気事業者の通常作業つまり枝打ちと並行して進める。
伐採対象本数は乙事地区115本、立沢地区29本である。

質問 県と中部電力・町の3者の連携は。定期連絡会等の開催予定は。

町長 昨年の台風災害で長期の停電を経験した。
これを踏まえて、3月に中部電力と町で災害に関する協定を締結した。

この協定には災害に伴う停電対応や平時における保安伐採の協力が含まれている。

定期連絡会については参加者や時期も含めて検討していく。

中部電力とは停電に関する送電線の系統を含めた詳細な情報共有を図っていく。県に対しては予算確保を要望しており、森林税を活用した保安伐採事業の継続推進をお願いしている。本年度は町単独予算を追加投入して、早期保安伐採とライフラインの確保に努めていく。

質問 地権者との契約は。
産業課長 施工業者と地権者の契約

を随時進めていただいている。

質問 県の補助金の総額と補助金の算出方法は？

産業課長 県全体では2500万円、町への補助金は200万円であり、算出方法は県の判断である

質問 伐採した材木の処理は。

産業課長 地権者と業者の話し合いであるが、枝の処理は観光道路でもあるので町費を投入して、チップ化する予定である。

質問 電力会社の協力は。

総務課長 送電線の系統を含めた詳細な情報はいただけないが概略図の提供をいただいた。

幼児教育「無償化」 による負担増は

答 町独自の
負担増対策を取る



名取 武一

質問 幼児教育「無償化」について
「無償化」により、保育園利用者が増えること、利用時間の延長などが予想されるが、その見通しと対

策は。

教育長 3歳児以上はまだ余裕があるが、未満児については保育士の確保の問題で難しい状況にある。

質問 「無償化」により町独自の保育料を軽減した部分について、財源が生まれるはずだが。

教育長 町独自に第3子以降の保育費補助をしており、昨年実績で町負担実質軽減は930万円ほど。今までの町の超過負担、管理費などの増加を考えると余剰は低い。

質問 保育料が無償となっても、副食材料費は実費徴収となる。町の制度と鑑み、利用者の一部に今までより負担増となることはないか。

教育長 第3子以降の子どもで、新制度で副食材料費を免除とされる所得360万円を超える階層にあたる世帯、の方々が負担増になる可能性があるが、負担増にならないように対応したい。

質問 認可外施設について、「改正法」では保育の必要性のある子供だけを利用料補助の対象としている。町民利用で漏れることはないか。

教育長 「森の家ぼっち」が認可外施設で、ぼっちを利用している世帯で、保護者が勤めていない世帯の利用者が11名いる。ぼっちは県が推奨しているやま保育を進めており、県

が保育料の2分の1を補助し、町が4分の1補助することを考えている。
■公営住宅に関する「公共施設再編方針」について
質問 町が策定した「公共施設再編方針」では、公営住宅については毎年1カ所ずつ廃止等をし、将来富里公営住宅だけを残すとしているが、低所得者対策は。
町長 公営住宅の古いものは55年を経過しており、経年劣化の度合いによって除却を考えている。余剰状態にある民間賃貸物件への家賃補助も考えている。社会情勢の変化に応じて、計画の見直しも考える。

8050問題当事者と ならない為に

答 地域との繋がりで
自分を高める事が重要



五味 仙一

質問 8050問題について、問題の当事者とならない為の考えを、生涯学習の観点から、又現在の指導要領の主意が理解され、一般的に内容が達成できてい

ば、この問題の発生が抑制できるのか、又40年前の指導要領との間に明らかな差異があり当時の指導に原因があるのか、又原因は義務教育以後に有るのか、義務教育の観点からお聞かせ頂きたい。
教育長 生涯学習課の今年の目標を「つなぐ」と設定した。

富士見町同級会支援事業等が孤立しがちな世帯、個人と個人を結びつきかけになればと期待している。

地域と共に環境を紡ぎ、地域との繋がりで自分を高める事が当事者にならない素地、礎を築いて行く上でとても重要なこと。

ゆめ広場も地域を結ぶ一つの拠点としてさらに工夫をしたい。

教育長 8050問題は根が深く、

様々な理由が複雑に絡み合っている為、義務教育だけの視点から一概に論じることは難しい。

来年度から変わる新学習指導要領に則した授業や教育活動を各校で着実に実践して、キャリア教育、進路指導の充実をさらにはかる。

■熟練工育成と早期の職業紹介

質問 建設の現場は、新築住宅、リフォームの補助金等により間接的に支援されているが、熟練工育成となると相当な年月が必要となる。何とか支援の方法を模索する考えは。

町長 建設現場の技の伝承は、若者の労働観や社会環境から難しい。

跡取り、後継者のいる人は極めて少ない。リフォーム補助等は間接的な支援だが、さらに充実した支援ができるよう見直しをはかる。

農業以外の産業の後継者を支援する補助制度等の検討を指示した。

質問 技術職の職業選択を早い段階で上手に紹介することは可能か。

教育長 職業にかかわる学習はキャリア教育として主に中学二年生を中心に力を入れて計画的に進めている。「なるには教育」や「職場体験」を通じて、生徒の興味関心の幅を広げることが大事。今後の学校教育、キャリア教育充実のため、キャリアパスポートの導入を検討している。

実態把握・就業支援が 急務

答 関係機関・関係者で
密接に対応



五味 平一

質問 富士見町に於ける「ひきこもり」の定義・現状・実態は。
町長 概ね、15歳から65歳までの方で、社会的な参加、仕事や学校や家庭

以外の人との交流・社会的参加が出来ない状態が6カ月以上継続して自宅にひきこもっているか又は、時々買い物等で、外出する程度の方を言う。国の要請による調査によると、ひきこもりと思われる方が、33名いる。その定義に於ける、人口割合では0.42%である。そして、生活状態では、親の年金収入が主で、経済的に衣食住を支えており、子は就労できていない。
教育長 不登校の児童数は増減はあ

るがひきこもりはいない。不登校とは病気がひきこもりではない理由において年間30日以上欠席した者を言う。その原因はまちまちである。生活は、親と一緒に又は、こどもだけの場合もある。

学習についてもそれぞれその子供にあった方法で行っており、学校でも支援会議・保護者との懇談に於いて、生徒の状況を把握して対応策を協議している。
住民福祉課長 ひきこもりの経緯について、行政が介入しているケースでは面談訪問によって関係者からヒヤリングを行っているが様々である。生活困窮者も存在するし暴力問題も発生している。

質問 「ひきこもり」問題をめぐる背景は。

町長 多様かつ複雑で家庭環境も様々ではない。一般的にはひきこもりのケースとして、何らかの精神症状や心理状態として親子間のトラブル、いじめ、就

職のつまづき、職場の人間関係のもつれ、世代間の価値の違い等が考えられる。

質問 「ひきこもり」の支援は。

町長 ひきこもりの情報があつた場合は、行政・社会福祉協議会・包括支援センターの支援関係者が、個別支援会議で情報を共有して支援を検討している。民生児童委員会の皆様には地域で緩やかに見守って頂くようお願いをしている。必要な場合は支援会議に出席していただく。行政では保健予防係の保健師が親子双方へ随時アプローチし相談や定期訪問を行っており、また、重層的・横断的に関係機関、関係個所に対応している。